

NEWS LETTER

2017年1月
2号

イノベーション創出若手人材養成プログラム

巻頭言

教育推進・学生支援機構 機構長 江馬 諭



「飛騨・美濃・尾張地域の新産業の牽引に必要な、マネジメント力、コミュニケーション力、協調性、創造性に富み、国際的な広い視野と実社会のニーズを踏まえた発想を身につけた人材の養成」を目的として、平成22年4月にイノベーション創出若手人材養成センターが開設され、イノベーションスキルプログラムと産学連携教育プログラムが実施されてきました。その後、センターの取組は、イノベーション創出若手人材養成プログラムとして教育推進・学生支援機構（キャリア支援部門）に引き継がれ、現在も継続

しています。

平成29年度には、イノベーションスキルプログラムであるエンライトメント・レクチャー（1単位）、ビジネス英語（2単位）、アイデア・トレーニング・キャンプ（1単位）が開講されます。このプログラムは、博士課程に在籍している間いつでも参加できます。さらに、これらの座学を修了した学生さんは産学連携教育プログラムである学外研修に出かけることも可能です。

皆さんが研究室で実験したり解析したりしている研究テーマについて、他の領域の学生さんや様々な国から留学している学生さんと意見交換しませんか。皆さんの研究テーマの意義や価値がブラッシュアップされ、今後の研究が一層楽しくなると思います。

平成28年度活動報告

教育推進・学生支援機構 特任教授 坂口 菜生子

平成27年4月よりキャリア支援部門で実施している「イノベーション創出若手人材養成プログラム」は、「イノベーション創出若手人材養成センター」での5年間を含めると、今年度で7年目になります。

このプログラムはドクターコースおよびポストドクターの皆さんを対象に、皆さんが毎日取り組んでおられる専門分野の研究の他に、産業界等のニーズを踏まえた発想や、幅広い視野を身につけることを目的としています。

今年度は学外研修（インターンシップ）を実施する「プログラム研修生」として3名が参加しています。2名はすでにインターンシップを終え、1名は来年度に実施する予定です。

さらに以下で述べる①～③の3科目の講義を1科目から履修登録できる「聴講生」として、工学・連合農学・

連合創薬医療情報研究科より延べ25名の博士後期課程学生が受講しました。

今年度は13名の留学生の他、仕事を持ちながらドクターコースに在籍する社会人学生2名がプログラムを受講しました。

このプログラムは①～③の座学および学外研修（インターンシップ）から成ります。

①エンライトメント・レクチャー（多業種の企業のリリーダーによる講義）

②ビジネス英語（ネイティブによる英語プレゼンテーションの講義・演習）

③アイデア・トレーニング・キャンプ

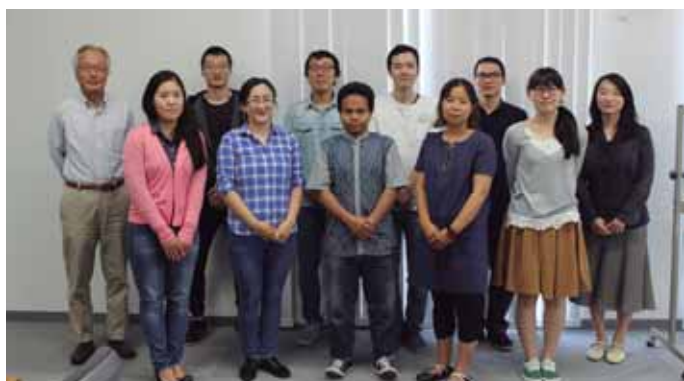
（異分野の参加者間の議論を通じて、問題発掘・解決能力を養う集中講義）

これらのプログラムを受講した学生からは毎年、「視野が広がった」「異なる研究室・研究科の友人ができた」との感想が聞かれます（アンケート結果を参照してください）。

①～③のプログラムは現在博士後期課程に在籍されている方、ポストドクターであればどなたでも履修登録できます。

平成29年度の参加者を平成29年1月16日（月）から募集します。

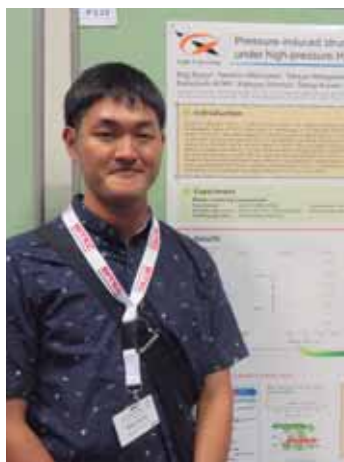
詳しくは4頁「平成29年度の予定」をご覧ください。



プログラムを振り返って

平成28年度プログラム研修生

大学院 工学研究科 環境エネルギーシステム専攻 博士後期課程2年
久野 敬司



私は研究活動によって専門知識を身に着けることに加えて、多角的な視点で物事を捉えられる人材を目指して博士後期課程へ進学をしました。プログラムへの参加のきっかけは博士という人材にどのような能力が求められているのか知りたいと思ったからです。その点で長期インターンシップはとても有益でした。企業における研究では、それまでに研究室で培ってきた専門知識は不可欠ですが、それだけでなく、「未知の問題に対する解決

策または道筋を示すことができるか、どこまで解決することができて、何ができないかを正しく判断する能力」が求められていると感じました。この能力が備わっている人材ならば、ニーズに対して新たな手法や製品の提案を行うことができ、大学や企業に関係なく活躍できると思いました。私は今後、まずは自分の専門性をさらに高めるとともに、いろいろな分野について自分なりの意見や解決策を積極的に考えていこうと思います。

平成28年度プログラム研修生

連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻2年
則定 純平



私は、学部4年生のころより携わっている研究テーマをより深めたく思い、博士課程に進学しました。本プログラムには、所属研究室の教官に勧められ受講を決めました。本プログラムでは、英語でのプレゼンスキルに加え、企業の研究者としての基本的な考え方や心構えを実際の研究者から聞くことができました。また他分野の研究についてグループディスカッションを行い、自分では思いつかなかった意見やアイデア、物の見方を知る

ことができ、現在の研究の進行に大いに役立っています。本プログラムでは、講座全体として他分野の研究アイデアに多く触れると共に、グループ間での話し合いを行う機会が多く、自身の研究の問題点が洗い出され大変有意義なものであったと思います。また長期インターンシップでは今までの講座の実践的な復習ができ、学んだことが身についたことを実感しました。今後も本プログラムで学んだことを用い研究を進めていきたいです。

平成24年度受講生

株式会社大塚製薬工場 鳴門研究所 再生医療研究室
渡邊 奈月



私は企業での研究について情報を得たいと思い、イノベーション創出若手人材育成プログラムに参加しました。プログラムで様々な経験を積ませていただくうちに、研究を自分の興味でとどめておくのではなく多くの人の役に立たせたいという気持ちが強くなり、進路を企業への就職に決めました。現在、私は株式会社大塚製薬工場の研究所で日々研究に励んでいます。細胞や遺伝子を扱うといった実験操作に関しては大学の研究と近い内

容も多々ありますが、大きく異なる点は研究の先にあるものです。自分の興味だけで進めていた大学での研究とは違い、その先には必ず病気で苦しんでいる人がいます。その人たちの存在を意識し、どのような薬ならその病気を治すことができるのか、もっと良い方法はないのかを常に考えながら研究を行っています。治療法が無いと言われている病気を治療可能にする薬を創るのが目標です。

プログラムへの思い



貴学キャリア支援部門の坂口先生より、インターン希望の久野さんを紹介戴きました。将来の国際競争力を支える有能人材の育成は日本にとって最重要の課題です。IoTによる新たなイノベーションが世界中で起こり、従来の価値観が通用しない時代に突入した今、自らの頭で考え、新たな価値創造ができる人材が必要です。岐阜大学の育成プログラムには、ビジネス英語、アイデアトレーニングといった研修が組み込まれ、時代の変化を捉えた

平成28年度インターンシップ受入企業
株式会社デンソー 技術企画部 担当次長
田口 隆志

ものと期待しています。久野さんの博士課程でのテーマが材料分析を活用した物性研究でしたので、基礎研究所で約2ヶ月半、あいちシンクロトロンの特許専用ビームライン運営に参画して戴きました。材料分析は魅力的な新材料開発を、足下から支える重要な技術です。明るく積極的な姿勢で、利用者と研究者の両方の立場から企業における研究活動を体験して戴き、我々も気付きを与えて貰いました。どうもありがとうございました。

平成28年度受講生の指導教員
工学部 電気電子・情報工学科 電気電子コース 教授
佐々木 重雄



当研究室博士後期課程学生の「イノベーション創出若手人材養成」プログラムへの参加は2人目ですが、現状のスタイルになってからは講義の選択の仕方に自由度が増え、プログラムを受講しやすくなっていると感じています。本年度受講している研究室の学生さんは、「エンライトメント・レクチャー」、「ビジネス英語」、「アイデア・トレーニング・キャンプ」、「インターンシップ」を履修しています。これらの講義では、通常の授業やゼミでは得ることができない、企業が必要とし

ている能力、考え方や、英語によるディスカッション、プレゼンテーション能力などを学ぶことができ、博士後期課程を修了して社会に進出する学生にとって大変有意義なものであり、学生さんからも大変好評です。現在のプログラムでも申し分ないのですが、博士後期課程の学生さんの中には純粋に研究者を目指す方も見えますので、研究者養成に視点を置いた内容が加味されれば、より良いものになるのではないのでしょうか。

イノベーション創出若手人材連携育成会 会長
大日本土木株式会社 執行役員岐阜本店長
巾 淳二



『次代を担う博士の育成と活用に向けて』（経団連2007年1月報告）の冒頭では、持続的成長を確実にする鍵は科学技術創造立国の実現を通じた絶えざるイノベーションの創出にあると経済界の強い意志が表明されている。知の高度化が進み、グローバル競争が激化している昨今、大学と産業界の双方において将来のイノベーションを生み出す人材が質・量ともに充実し融合し合う産学間の連携・協力関係を強化する必要がある。しかし博士課程では現状【優秀な人材の欠如→企業が採

用に消極的】という悪循環に陥る中、博士課程改善に向けて大学・産業界が協同して取り組むべき課題は多い。アカデミアにおけるポストが限られている以上、博士課程進学者自らがキャリアプランやライフプランについて多様な可能性を視野に入れ設計することは極めて重要だし、企業側では要求人材像の明示や給与差を設定するなどの対応は特に重要と思われる。既に7年近く取り組んできた本プログラムが課題克服の一助になることを期待する。

プログラムアンケート結果

プログラムを修了した学生に平成28年8月アンケートを実施し、次のような結果を得ました。

プログラムを受講して成長した：100%			
成長した点	視野が広がった	88%	【その他】 ●段取りをしっかりと立てられるようになった ●英語を身近に感じられるようになった
	考え方が柔軟になった	69%	
	その他	31%	
向上した能力	コミュニケーション能力	63%	【その他】 ●相手を尊重する態度や方法 ●社会人としての対応能力 ●互いを理解するスキル
	プレゼンテーション能力	63%	
	研究の進め方	63%	
	語学力	44%	
	その他	19%	
良かったこと	企業ニーズが理解できた	69%	【その他】 ●大学にしながら海外の友人と英語で話すことは、大変楽しく、勉強になった。 ●have learnt about how the people in other fields work on their jobs.
	新しい友人ができた	63%	
	将来の進路の参考になった	63%	
	研究が進展した	25%	
	その他	25%	

今後プログラムが役に立つと思う：100%	
●自分の専門と異なる分野の方の価値観、その方が必要だと感じているスキルなど自分が持っていなかった考え方に沢山触れることができ、自分の視野が広がった。また、自分と同世代の博士課程学生の意見を聞くことで刺激を受け、研究活動に対して更なる意欲が湧いた。	
●多領域の同じ学年で苦慮している人に実際会えるのはいいことだと思う。考えや思慮が深く、議論しやすく、刺激になった。	
●普段の研究活動では出会うことのない他分野の講師の方の話を聞くことで、これまでの自分にはない考え方や価値観を学ぶことができた。また、企業側が要求しているニーズを理解することができ、社会人になるための準備をしながら、残りの学生生活を送ることができる。	
●以前からプレゼンテーションに苦手意識を持っていたが、英語のみならず日本語でプレゼンテーションをする際の参考になった。また、卒業後の進路を具体的に考えるきっかけとなった。	
●企業でどのような人材が求められているかがよく分かった。自分の専門ではない分野について知る良い機会となり、視野が広がった。	
●企業の管理職もしくは経営層クラスの方から直接お話を聞けるため、広い視野の知見が得られる。	
●The skills I have learnt in the lecture can make my presentation more professional. This can make me more competitive in future competition.	
●Many good points are achieved from all program. I will develop my soft skill in related to presentation and discussion from here on.	
●Business English and Idea training camp improve my knowledge and also communication skills.	

プログラムを後輩・友人に勧めたい：100%	
●自分の専門分野だけでなく、広い世界を知るきっかけとなると思います。自分の世界が他の人からどう見られているかを知ることでもできます。	
●英語でプレゼンテーションをすることの練習になる。岐阜大学の博士の留学生と仲良くなるチャンスである。進路を考えるきっかけになる。視野が広がる。	
●就職後のために学生のうちに何を身に付けておくべきか、この講義をきっかけに考えることができる。様々な分野について興味を持つきっかけになると思う。	
●アイデアトレーニングキャンプでは知り合いが多くなり、視野、知識が増えた。	
●学生にとって、通常の授業では決して得られない非常に貴重な機会だと思います。ぜひとも引き続き企画していただきたいです。	
●同じ大学でどういう人材がいるのか、ということを知ることが、今後卒業した後にも何らかの交流や人脈を築く元になると思う。	
●研究活動をしていく中で視野が狭くなりがちだが、異分野交流を行うことで様々な刺激を受けることができ、柔軟な考え方をすることができるようになったと感じた。	
●The knowledge I have learnt in this program is very practical and useful. I strongly recommend this program to all the doctoral course students.	
●Innovation Skill Program is fascinating program. I appreciate how helpful and organized the teacher was and certainly would recommend this program to other doctoral students in Gifu University.	
●Before this program I never think about my research can be business possibility. After that I obtained from lectures lots of new ideas.	
●Truly help to improve the presentation skills.	

平成29年度の予定

※ 詳しくはそれぞれの「募集要項」をご覧ください

	聴講生	プログラム研修生
応募資格	平成29年度のD1～D3 ポストドクター（PD） ※国費留学生・社会人可	平成29年度のD1～D3 博士号取得後5年以内のPD ※国費留学生・社会人は不可
応募期間	2017年1月16日（月） ～3月24日（金）	2017年1月16日（月） ～2月28日（火）
面接	なし（書類提出のみ）	あり（書類審査合格後）
受講できるプログラム	イノベーションスキル・プログラム☆の少なくとも1つ	イノベーションスキル・プログラム☆全て（受講必須）およびインターンシップ（1～3ヶ月あるいは3ヶ月以上）
受講期間	平成29年度前期 一度履修登録すれば修了または退学まで有効	D2・D3・PD：平成29年度のみ D1：平成29年度前期（講義）＋平成30年度（インターンシップ）



☆ エンライトメント・レクチャー、ビジネス英語、アイデア・トレーニング・キャンプ